

東京科学大学病院脳神経外科への通院歴のある

もやもや病患者さんへ

当院では「脳腫瘍合併類もやもや病における多施設登録研究 Registry of Moyamoya Disease Coexisting with Brain Tumor (MODERATO-MMD)」という研究を実施しています（研究責任者：脳神経機能外科学分野 助教 原祥子）。つきましては以下の研究主旨をご理解いただき、研究への参加を希望されない場合や研究に関するご質問がある場合は最下部の連絡先へご一報下さい。

【研究内容詳細】

① 試料・情報の利用目的、方法（研究概要等）

現在のもやもや病診断基準では、脳腫瘍の合併は除外診断の一つとされていますが、その医学的根拠は明らかではありません。本研究では、脳腫瘍を合併したもやもや病の臨床像や画像上の特徴を明らかにし、診断基準の妥当性を検証することで、今後のより適切な診断基準の見直しや診療の質向上に役立つ知見を得ることを目的としています。

対象は、2009 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日の間に、東京科学大学病院脳神経外科および研究参加機関（10.）において受診もしくは入院したもやもや病患者さんのうち、脳腫瘍の既往がありもやもや病に準じた頭蓋内血管病変を認める方を対象とします。ただし、もやもや病の診断または発症前に放射線治療を受けた方、特定の基礎疾患がある方、もやもや病の診断後に脳腫瘍が発生したことが明らかな方は対象となりません。

② 利用・提供する試料・情報の種類・項目

本研究では、診療の過程で得られた既存の情報を用いて、脳腫瘍を合併したもやもや病の特徴を明らかにします。データ収集をする際に個人が特定されないよう仮名化して京都大学に集約し、臨床像や画像所見の傾向を統計的に解析します。個人情報に関しては各機関において厳重に管理します。

1. 臨床データ

① 生年月日・性別

② 発症年月日

③ 高血圧・糖尿病・脂質代謝異常の既往

④ 喫煙歴（過去 100 本以上の喫煙もしくは現在喫煙者を「あり」と定義）

⑤ もやもや病の家族歴

- ⑥診断時発症様式（一過性脳虚血発作/脳梗塞/脳出血/てんかん/その他）
- ⑦合併脳腫瘍の局在、手術有無、化学療法の有無、画像学的あるいは病理学的診断、等
- ⑧RNF-213 遺伝子多型の有無（既に検査が行われている場合）
- ⑨経過中の血管狭窄進行の有無
- ⑩バイパス手術の有無
- ⑪経過観察中のイベント
- ⑫最終診察時 modified Rankin scale

2. 放射線学的データ

MRI、脳血管撮影などの既存情報をもとに以下の項目を測定します。

- ①病変の側方性（片側性 or 両側性）
- ②鈴木分類
- ③脳底部もやもや血管の有無
- ④血管外径狭小化（T2 強調画像、Heavy T2 強調画像等をもとに判定）
- ⑤脳室周囲吻合（periventricular anastomosis）
- ⑥後大脳動脈病変
- ⑦Vault moyamoya の発達
- ⑧術後のバイパスの発達程度

③ 利用する者の範囲

研究代表機関 京都大学医学部附属病院 脳神経外科（研究代表者：講師 舟木健史）へ、本学から匿名化された状態でデータは送付されます。

④ 試料・情報の管理の責任者の氏名又は名称

研究の情報は、保管管理責任者（助教・原祥子）のもと、東京科学大学脳神経機能外科学分野実験室で保管されます。

研究への参加を希望されない場合や研究に関するご質問がある場合は最下部の連絡先へご一報下さい。

連絡先：東京科学大学病院（脳神経外科・助教・原祥子）

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

03-5803-5676（脳神経外科外来ダイヤル）（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）

苦情窓口：東京科学大学研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯 平日 9:00～17:00）

※他の研究参加者の個人情報や研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧することができます。ご希望の際は、上

記の研究者連絡先までお問い合わせください。

研究期間：研究実施許可日～2030 年 3 月 31 日

本研究は、当大学では運営費を用いて行われます。本研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。

利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

以上